| 学校番号 | １０１２ |
|---|---|

# 令和８年度　福祉科

| 教科 | 福祉 | 科目 | カウンセリング実習 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「カウンセリング実習」ではカウンセリングの基本となる「受容・共感・傾聴」を土台とし、高齢者や障がい者、子どもといった支援を必要とする方へよりよい支援が行えるよう具体的な事例をもとにカウンセリングやコミュニケーションの技術について学習していきます。職業として介護職につかない人にとっても今後の人生のなかで役立つ知識になるでしょう。エンカウンターワークやグループワーク発表を通じて自己理解や他者理解を深め、円滑なコミュニケーションための基本的態度を理解し、演習を通じて基礎的な技法を身に付けていきます。

## ２　学習の到達目標

【知識及び技術】

カウンセリングの基本となる「受容・共感・傾聴」を土台とし、コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得し、日常での人との良好なコミュニケーション作りで活用する能力と態度を身につける。

【思考力・判断力・表現力等】

カウンセリングの基本となる「受容・共感・傾聴」を土台とし、自分も相手も大切にできるような言葉や態度を考え、表現することができる。

性格検査や心理テスト等について学び、実習することで自己理解を深める。

【学びに向かう力・人間性等】

エンカウンターワークやグループ実習、話し合いなどを通じて人との関わりを多く経験し、積極的に人と関わろうとしている。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、カウンセリングの知識をふまえ、コミュニケーションに関する基礎的な知識を身につけるとともに、福祉に関する諸活動において、その技術を適切に活用している。 | 介護及び支援を必要とする課題に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 | 人間関係形成に必要なコミュニケーションに関心を持ち、コミュニケーションに関する基礎的な知識を習得し、介護及び支援を必要とする課題に主体的に取り組む態度を身につけている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | コミュニケーションの意義と役割 | ・人間の理解と人間関係<br>・福祉実践におけるコミュニケーション | a:コミュニケーションについての基礎的な知識を身に付け、意義や役割を理解している。<br>b:自己の日常生活と人との関わり方を関連させながら思考を深め、適切な知識と援助方法について自分の言葉で表現している。<br>c:人とかかわるうえで必要な基本的な人間の理解と人間関係について関心を持ち、より良い人間関係の構築の方法について探求しようとしている。 | テスト<br>プリント | テスト<br>プリント | プリントの取り組み<br>ワークへの参加 |
| | コミュニケーションの基本技術 | ・カウンセリングの聴き方<br>・受容・共感・傾聴<br>・対人援助におけるコミュニケーションの実際 | a:カウンセリングに必要とされる聴き方についての基礎的な知識を持ち、それが対人援助や日常生活においてどのように活かされているのか理解している。<br>b:事例学習を通じて、良好なコミュニケーションを築くための表現を適切に表している。<br>c:カウンセリングの技法を通して、日常生活における人との関わり方について関心を持つことができている。 | テスト<br>プリント | テスト<br>プリント<br>発表の内容 | プリントの取り組み<br>ワークへの参加 |
| 2学期 | コミュニケーションの基本技術 | ・アサーションについての基礎知識<br>・アサーショントレーニングの活用<br>・ストレスマネジメント<br>・失敗から学ぶ | a:自分も他者も大切にしたコミュニケーションの方法や考え方を身に付けている。<br>b:自分も他者も大切にできる文章や考えを適切に表現することができる。<br>c:アサーションやストレスへの対処について、日常生活に活かし、自分も他者も大切にすることに対して関心を持つことができる。 | テスト<br>プリント | テスト<br>プリント<br>発表内容 | プリントの取り組み<br>ワークへの参加 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3<br>学<br>期 | サービス利用者に応じたコミュニケーション | ・高齢者とのコミュニケーション<br>・障がいのある人とのコミュニケーション | a:高齢期の変化や機能低下、障がい者福祉の理念などについて身に付け、それをふまえた支援の在り方や対応について理解し、カウンセリングの考え方を活用したコミュニケーションの技能を高めている。<br>b:高齢者や障がいのある方とのコミュニケーションについて思考を深め、知識や技術をもとに判断し、その過程や結果を適切に表現している。<br>c:高齢期の変化や障がい者福祉の理念を踏まえ、気持ちの変化や環境について関心を持ち、高齢者や障がいのある方とのコミュニケーションや支援の方法について探求しようとしている。 | テスト<br>プリント | テスト<br>プリント | プリントの取り組み |

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度